

国指定十和田鳥獣保護区  
十和田特別保護地区計画書  
【指定】  
(環境省案)

平成 年 月 日  
環 境 省

## 1 特別保護地区の概要

### (1) 特別保護地区の名称

十和田特別保護地区

### (2) 特別保護地区の区域

十和田鳥獣保護区のうち、青森県青森市所在国有林青森森林管理署 215 林班ロ小班、216 林班は、に、イ及びロの各小班、217 林班は及びイからハまでの各小班、218 林班ち及びイの各小班、219 林班と及びイの各小班、220 林班は小班、225 林班ほ小班、231 林班ほ小班、236 林班へ小班、244 林班（い小班を除く。）、250 林班イ小班並びに 252 及び 259 の各林班の区域、同県十和田市所在国有林三八上北森林管理署 54、57 から 59 まで及び 64 の各林班、65 林班い 1、い 2、ろ 2 からほまで、と 1、と 2 及びハの各小班、66 林班へ 1 からへ 3 まで、ぬからたまで、そ 1 からそ 5 まで及びイの各小班、67 及び 68 の各林班、111 林班は 1 からは 3 まで、ほ、へ 1、りからねまで、イ及びハからル 2 までの各小班並びに 114 から 117 まで及び 120、156 の各林班の区域、同市大字奥瀬字十和田湖畔子の口 463 番 1 から 474 番 3 まで、476 番及び同市大字奥瀬字十和田湖畔字樽部 493 番、494 番の区域、同県平川市所在国有林津軽森林管理署 1066 林班は 1 からへまでの各小班、1068 林班は 1 からほまで及びイの各小班並びに 1069 及び 1070 の各林班の区域、秋田県鹿角郡小坂町所在国有林米代東部森林管理署 3081 から 3087 までの各林班、3088 林班（ろ小班を除く。）の区域並びにこれらの区域に介在する公有地の区域（国有林三八上北森林管理署に係るものに限る。）、青森県青森市所在国有林青森森林管理署 244 林班と 248 林班と公有地との交点を起点とし、同所から国有林と公有地との境界線を南東に進み同森林管理署 250 林班と公有地の境界線との交点に至り、同所から同所と起点を結ぶ直線を北進し起点に至る線により囲まれた区域並びに公道及び民有地の区域（国有林米代東部森林管理署に係るものを除く。）並びに公有水面の区域（国有林三八上北森林管理署及び米代東部森林管理署に係るものに限る。）

### (3) 特別保護地区の存続期間

平成 29 年 11 月 1 日から平成 39 年 10 月 31 日まで（10 年間）

## 2 特別保護地区の保護に関する指針

### (1) 特別保護地区の指定区分

大規模生息地の保護区

### (2) 特別保護地区の指定目的

十和田鳥獣保護区は、青森県中央部から秋田県北東部に位置し、八甲田山系域、十和田湖周辺域及び十和田湖からの唯一の流出河川である奥入瀬川流域から構成されており、ブナ林を始めトチノキ・イタヤカエデ等の落葉広葉樹林からなる冷温帯林からアオモリトドマツ林・ダケカンバ林等の亜寒帯林へと変化に富んだ林相となっている。このほか、山城、水域、渓流域等の広大な区域からなっており、多様な森林帯、地形等を有している。

このような自然環境を反映して、鳥類では、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種であり、環境省が作成したレッドリストに掲載された絶滅危惧ⅠB 類のクマタカ、イヌワシ等の猛禽類の生息が確認されている。このほか、絶滅危惧Ⅱ類のクマガラの生息が確認されている。さらに、ゴジュウカラ、キビタキ等の森林性の鳥類や、ホシガラス、イワヒバリ等の高

山性の鳥類、オシドリ、キンクロハジロ、ホオジロガモ等のガンカモ類も確認されており、合計で183種の生息が確認されている。哺乳類ではツキノワグマ、ニホンカモシカを始め42種の生息が確認されており、多種多様な鳥獣の生息地となっている。

特に、当該鳥獣保護区の中でも、十和田湖周辺域は、ブナ林等の落葉広葉樹林が分布し、十和田湖畔の山地谷部及び奥入瀬溪流沿いでは、山地の谷部に発達する河畔林であるジュウモンジシダ―サワグルミ群落の典型的な群落が見られる等、周辺区域における代表的な自然環境を有する地域となっている。

また、八甲田山系域にあっては、南八甲田連峰の東麓に位置する深いブナ林を始め、標高500m付近から900m付近に広く分布しているチシマザサ―ブナ群落や、標高900m付近から標高1400m付近に分布しているアオモリトドマツ群落等、特に変化に富んだ自然植生となっている。

これらの林内には、ツキノワグマ、ニホンカモシカを始めとする大型哺乳類が広い範囲で生息し、ノウサギやネズミ類、リス類等が多く生息していることから、これらを餌とする猛禽類の採餌の場としても重要な区域となっているとともに、ブナ林の中に蔦沼、黄瀬沼等の池沼が点在していることから、クマゲラ、ミソサザイ等の森林性鳥類に加え、カワガラス、オシドリ等の水辺の鳥が多く確認されており、多様な鳥類の生息地として特に重要な区域となっている。

このように、当該区域は、十和田鳥獣保護区の中でも特に保護を図る必要がある区域であると認められることから、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律(平成14年法律第88号)第29条第1項に規定する特別保護地区に指定し、当該区域に生息する鳥獣及びその生息地の保護を図るものである。

### (3) 管理方針

- 1) 大規模生息地の保護区として、イヌワシ、クマゲラ、ツキノワグマ、ニホンカモシカ等の多様な鳥獣の生息環境を保護するため適切な管理に努める。
- 2) 鳥獣のモニタリング調査等を通じて、区域内の鳥獣の生息状況の把握に努め、必要に応じて保全対策を講じる。
- 3) 定期的に巡視を実施する等により、静謐な環境の保持を図り、鳥獣の安定的な生息に著しい影響を及ぼすことのないよう留意する。
- 4) 農林業被害の発生状況の把握に努め、有害鳥獣捕獲の申請に対しては、被害等の実績を十分考慮して適切に対応する。
- 5) 鳥獣の生息に影響を及ぼさない範囲で、自然とのふれあいの場、環境教育の場として活用を図る。

### 3 特別保護地区の面積内訳 別表1のとおり。

### 4 指定区域における鳥獣の生息状況

#### (1) 当該地域の概要

##### ア 特別保護地区の位置

当該区域は、十和田鳥獣保護区のうち、主として八甲田連峰の山城、南八甲田連峰の東麓にある蔦沼、黄瀬沼等の池沼及び湿原からなる北部の地区と十和田湖周辺域及び奥入瀬川流域からなる南部の地区の2区域からなる。

##### イ 地形、地質等

当該区域は、東北地方の奥羽脊梁山脈の北縁部に位置する標高200mから標高1500

m余りに及ぶ区域であり、第四紀に活動を開始した十和田火山群及び八甲田火山群により形成されている。同区域北部に位置する八甲田連峰は、北八甲田火山群及び南八甲田火山群に大別され、南北合わせて1200～1500m級の山岳20座以上の火山体により構成されている。南部には十和田火山の火砕流堆積物の放出によりできた二重式カルデラの十和田湖がある。

地質は、主に火砕岩類及び泥質岩から構成される新第三系を基盤とし、これを不整合に覆う火山砕屑岩類を主体とする第四系で構成されている。

#### ウ 植物相の概要

当該区域における植生は、低地から高山帯まで極めて変化に富んでおり、標高500m付近まではスギ、カラマツの植林やクリ・コナラ・ミズナラ群落からなる二次林となっている。標高900m付近まではブナ等の落葉広葉樹林が広がっている。チシマザサ・ブナ群落が大面積に分布している地域は、標高500m前後から標高900m付近までである。

これらの地域の沢沿いには、ジュウモンジシダー・サワグルミ群落が発達し、特に十和田湖及び奥入瀬溪流沿いには典型的な群落が見られる。

標高900m付近から標高1400m付近までは亜高山帯に属し、アオモリトドマツ群落を形成しており、下部ではブナと混交し、上部ではダケカンバと混交している。標高1400mが森林限界となっており、それ以上はいわゆる高山帯に属し、ハイマツ群落が出現している。

八甲田火山群を包括する地域では、山麓部からブナ林そして、アオモリトドマツ林、ダケカンバ林が現れ、ハイマツ林、高山植物群落へと典型的な垂直分布が見られる。山稜部や中腹部には湿原や雪田が発達しており、湿原ではミツガシワ、キンコウカ、モウセンゴケ、サワギキョウ、コバギボウシ等が、雪田ではチングルマ、アオノツガザクラ、ヒナザクラ、イワイチョウ等が見られる。

蔦付近では深いブナ林、奥入瀬溪流沿いではトチノキ、カツラ、イタヤカエデを中心とした落葉広葉樹林などが広がっている。

十和田・八甲田地域の植物相は、127科920種となっている。

#### エ 動物相の概要

当該区域に生息している鳥獣相は豊富で、獣類では、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンザル、ホンドタヌキ、ホンドキツネ等7目17科42種の哺乳類が確認されている。

鳥類では、18目49科183種が確認されている。クマタカ、イヌワシ等の猛禽類を始め、広大なブナ帯を中心にゴジュウカラ、キビタキ等の森林性の鳥類が多く生息し、高山性の鳥類ではホシガラス、イワヒバリ等が見られる。また、カワガラス、アカショウビン等、溪流を好む種類やオシドリ等ガンカモ類が多い。

蔦付近の深いブナ林では、シジュウカラ等のカラの仲間を始め、キツツキ類が、沢沿いではミソサザイ、蔦沼付近では、キセキレイ、ヤマセミ等が見られる。

十和田湖周辺では冬期、キンクロハジロ、ホオジロガモ、カワアイサ、カイツブリ等の水鳥が集まり、また、湖畔の林内には、一年中、シジュウカラを始めゴジュウカラ、アカゲラ、コゲラ等の森林性の鳥類が見られる。

#### (2) 生息する鳥獣類

ア 鳥類 別表2のとおり。

イ 獣類 別表3のとおり。

(3) 当該地域の農林水産物の被害状況

平成 28 年度は、秋田県小坂町和井奈地区において、ツキノワグマによる漁業被害がみられた。

その他、平成 26 年度には青森県十和田市宇樽部地区においてツキノワグマによる水稻被害、同じく休屋地区で畑作物への被害の報告があった。

また、青森県及び秋田県では近年ニホンジカの見撃情報があることから、今後、分布の拡大や農林業被害の発生が懸念されている。

なお、当該地域における有害鳥獣捕獲許可件数は、下表のとおりである。

鳥獣名	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
	許可 件数	捕獲 等数	許可 件数	捕獲 等数	許可 件数	捕獲 等数
ツキノワグマ	0	0	2	0	0	0

5 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律第 32 条の規定による補償に関する事項

当該区域において、第 32 条の規定による損失を受けた者に対しては、通常生ずべき損失を補償する。

6 施設整備に関する事項

- |               |      |
|---------------|------|
| (1) 特別保護地区用制札 | 25 本 |
| (2) 案内板       | 7 本  |
| (3) 解説板       | 5 基  |

7 参考事項

(1) 当初指定

昭和 28 年 10 月 10 日 (昭和 28 年 10 月 9 日農第 695 号)

(2) 経緯

変更 (区域の縮小)

昭和 39 年 2 月 8 日 (昭和 39 年 2 月 8 日農第 127 号)

変更 (区域の縮小)

昭和 40 年 4 月 27 日 (昭和 40 年 4 月 27 日農第 511 号)

指定

昭和 48 年 11 月 1 日 (昭和 48 年 10 月 26 日環境庁告示第 99 号)

変更 (区域の拡大)

昭和 52 年 11 月 1 日 (昭和 52 年 10 月 29 日環境庁告示第 81 号)

指定

昭和 62 年 11 月 1 日 (昭和 62 年 10 月 27 日環境庁告示第 50 号)

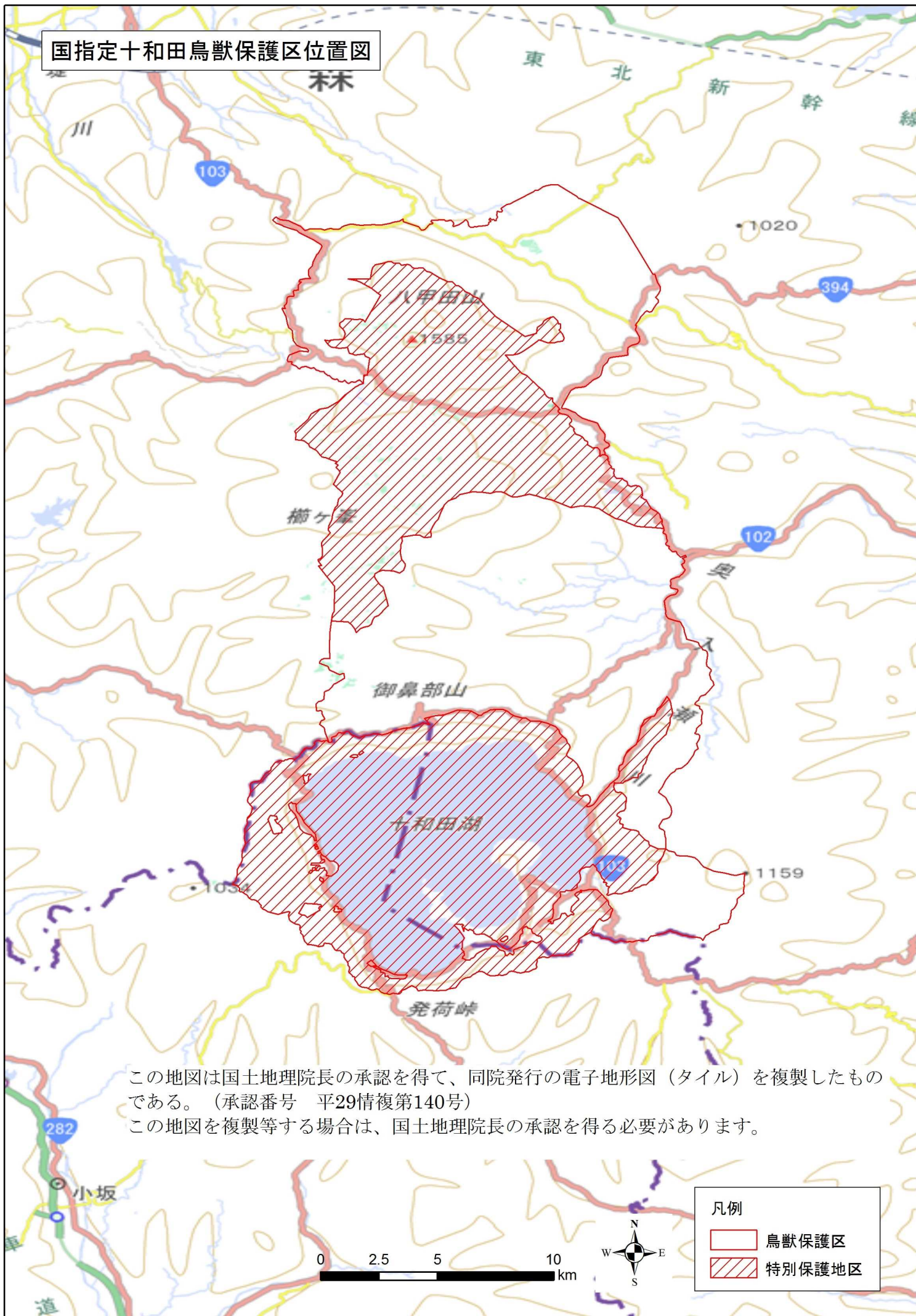
指定

平成 9 年 11 月 1 日 (平成 9 年 10 月 22 日環境庁告示第 51 号)

指定

平成 19 年 11 月 1 日 (平成 19 年 10 月 31 日環境省告示第 91 号)

# 国指定十和田鳥獣保護区位置図

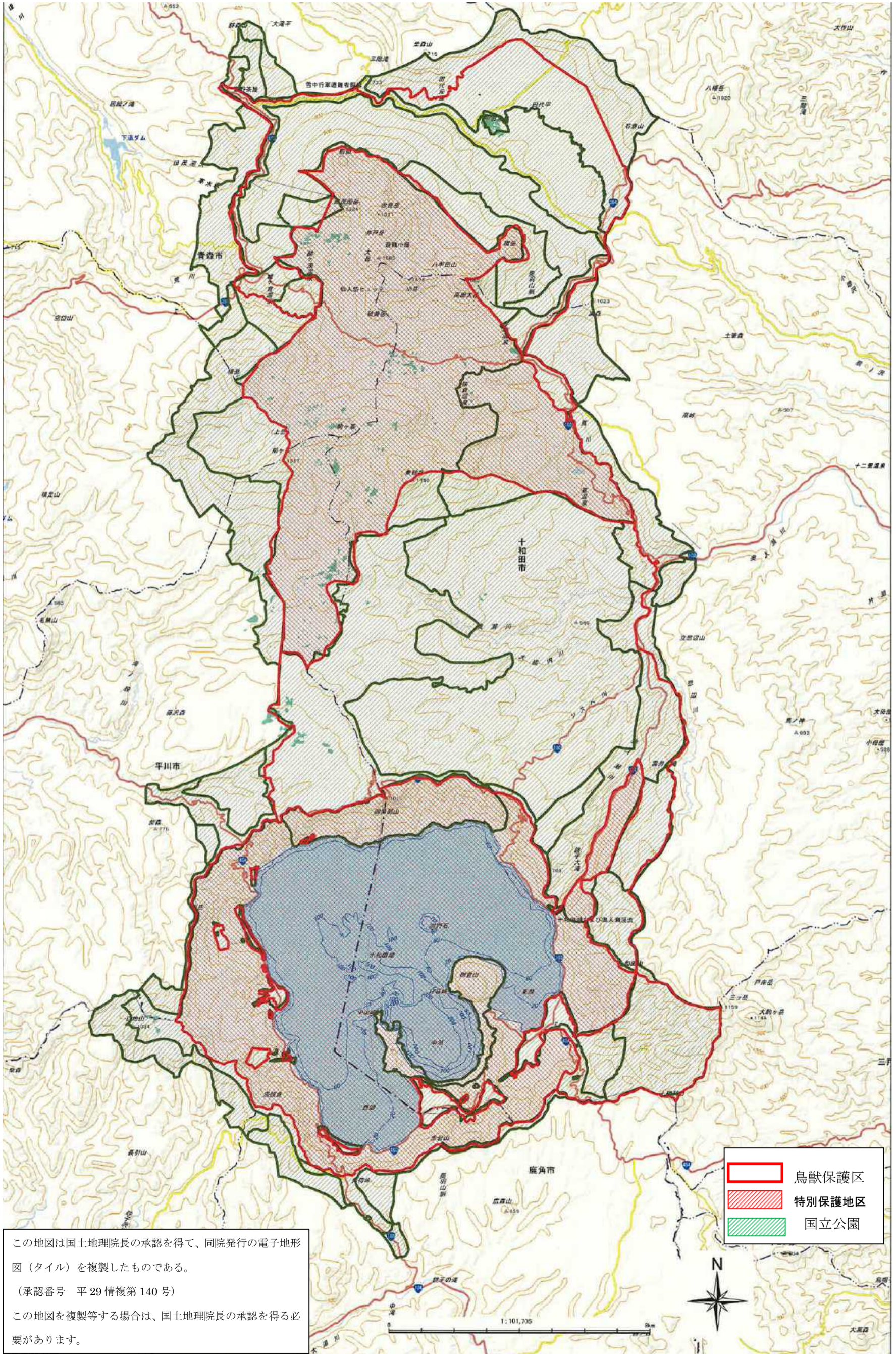


この地図は国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平29情複第140号）  
この地図を複製等する場合は、国土地理院長の承認を得る必要があります。

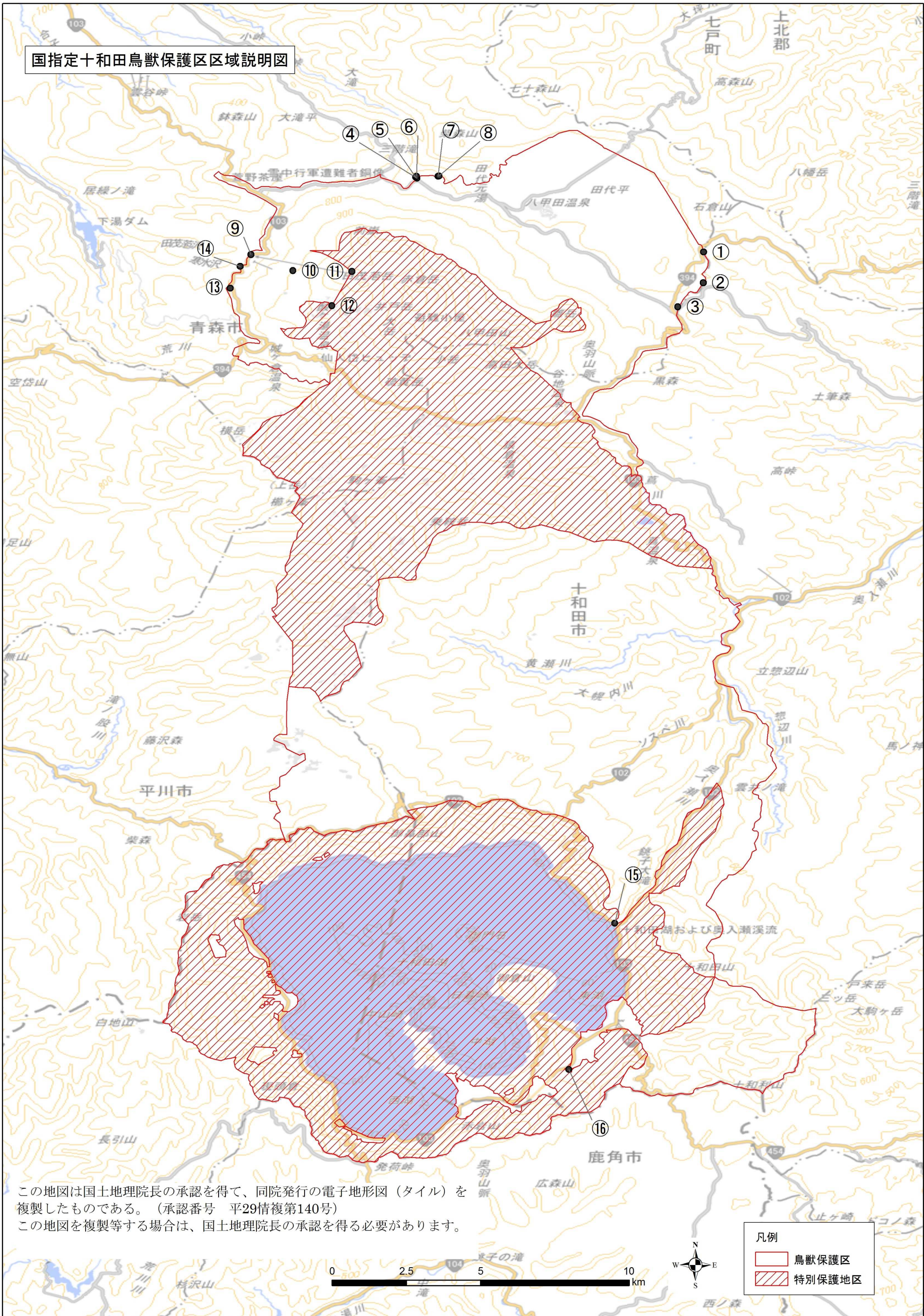
凡例

- 鳥獣保護区
- 特別保護地区

# 国指定十和田鳥獣保護区及び同特別保護地区区域図



国指定十和田鳥獣保護区区域説明図



この地図は国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平29情複第140号）  
 この地図を複製等する場合は、国土地理院長の承認を得る必要があります。



凡例	
<span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	鳥獣保護区
<span style="border: 1px solid red; background: repeating-linear-gradient(45deg, transparent, transparent 2px, blue 2px, blue 4px); display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>	特別保護地区



別紙

番号

- 1 国有林青森森林管理署 2 0 1 林班南端と青森県青森市と同県十和田市との交点
- 2 青森県青森市と同県十和田市の境界線
- 3 国有林青森森林管理署 2 1 4 林班と民有地の境界線との交点
- 4 国有林青森森林管理署 2 2 2 林班と青森市大字駒込字深沢 6 0 6 番 4 の境界線との交点
- 5 国有林青森森林管理署 2 2 2 林班と青森市大字駒込 6 0 6 番 4 の境界線
- 6 国有林青森森林管理署 2 2 2 林班と青森市大字駒込字深沢 6 2 1 番 2 の境界線との交点
- 7 青森市大字駒込字南駒込山 8 番と同市大字駒込字深沢 6 2 1 番 2 の境界線との交点
- 8 国有林青森森林管理署 2 2 2 林班と青森市大字駒込字深沢 6 2 1 番 1 の境界線との交点
- 9 国道 1 0 3 号線と国有林青森森林管理署 2 4 8 林班と民有地の境界線との交点
- 10 国有林青森森林管理署 2 4 8 林班と公有地の境界線との交点
- 11 国有林青森森林管理署 2 4 4 林班と同 2 4 8 林班と公有地の接点
- 12 国有林青森森林管理署 2 5 0 林班と同 2 5 2 林班と公有地の接点
- 13 国道 1 0 3 号線との交点
- 14 国道 1 0 3 号線
- 15 青森県十和田市大字奥瀬字十和田湖畔子の口 4 6 3 番 1 から 4 7 4 番 3 及び 4 7 6 番の区域
- 16 青森県十和田市大字奥瀬字十和田湖畔字樽部 4 9 3 番の区域

別表1 国指定十和田鳥獣保護区十和田特別保護地区の面積内訳

◆形態別面積内訳

	鳥獣保護区			特別保護地区			特別保護指定区域		
	既存面積	拡大(縮小)面積	拡大(縮小)後の面積	既存面積	拡大(縮小)面積	拡大(縮小)後の面積	既存面積	拡大(縮小)面積	拡大(縮小)後の面積
総面積	37,674 ha	ha	37,674 ha	19,366 ha	ha	19,366 ha	ha	ha	ha
林野	29,333 ha	ha	29,333 ha	13,217 ha	ha	13,217 ha	ha	ha	ha
農耕地	1,493 ha	ha	1,493 ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
水面	6,102 ha	ha	6,102 ha	6,102 ha	ha	6,102 ha	ha	ha	ha
その他	746 ha	ha	746 ha	47 ha	ha	47 ha	ha	ha	ha

◆所有別面積内訳

	鳥獣保護区			特別保護地区			特別保護指定区域		
	既存面積	拡大(縮小)面積	拡大(縮小)後の面積	既存面積	拡大(縮小)面積	拡大(縮小)後の面積	既存面積	拡大(縮小)面積	拡大(縮小)後の面積
国有地	27,808 ha	ha	27,808 ha	13,057 ha	ha	13,057 ha	ha	ha	ha
国有林	27,653 ha	ha	27,653 ha	13,022 ha	ha	13,022 ha	ha	ha	ha
林野庁所管	27,653 ha	ha	27,653 ha	13,022 ha	ha	13,022 ha	ha	ha	ha
制限林	27,465 ha	ha	27,465 ha	12,969 ha	ha	12,969 ha	ha	ha	ha
保安林	27,386 ha	ha	27,386 ha	12,904 ha	ha	12,904 ha	ha	ha	ha
砂防指定地	79 ha	ha	79 ha	65 ha	ha	65 ha	ha	ha	ha
その他	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
普通林	188 ha	ha	188 ha	53 ha	ha	53 ha	ha	ha	ha
その他の所管	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
国有林以外の国有地	155 ha	ha	155 ha	35 ha	ha	35 ha	ha	ha	ha
環境省所管	77 ha	ha	77 ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
国土交通省所管	78 ha	ha	78 ha	35 ha	ha	35 ha	ha	ha	ha
地方公共団体有地	644 ha	ha	644 ha	199 ha	ha	199 ha	ha	ha	ha
都道府県有地	15 ha	ha	15 ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
制限林地	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
保安林	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
砂防指定地	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
その他	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
普通林地	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
その他	15 ha	ha	15 ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
市町村有地等	629 ha	ha	629 ha	199 ha	ha	199 ha	ha	ha	ha
制限林地	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
保安林	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
砂防指定地	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
その他	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
普通林地	367 ha	ha	367 ha	191 ha	ha	191 ha	ha	ha	ha
その他	262 ha	ha	262 ha	8 ha	ha	8 ha	ha	ha	ha
私有地等	3,120 ha	ha	3,120 ha	8 ha	ha	8 ha	ha	ha	ha
制限林地	71 ha	ha	71 ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
保安林	68 ha	ha	68 ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
砂防指定地	3 ha	ha	3 ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
その他	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
普通林地	1,242 ha	ha	1,242 ha	4 ha	ha	4 ha	ha	ha	ha
その他	1,807 ha	ha	1,807 ha	4 ha	ha	4 ha	ha	ha	ha
公有水面	6,102 ha	ha	6,102 ha	6,102 ha	ha	6,102 ha	ha	ha	ha
計	37,674 ha	ha	37,674 ha	19,366 ha	ha	19,366 ha	ha	ha	ha

◆他法令による規制区域

	鳥獣保護区			特別保護地区			特別保護指定区域		
	既存面積	拡大(縮小)面積	拡大(縮小)後の面積	既存面積	拡大(縮小)面積	拡大(縮小)後の面積	既存面積	拡大(縮小)面積	拡大(縮小)後の面積
自然環境保全法による地域	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
特別地域									
普通地域									
自然公園法による地域 (十和田八幡平国立公園)	37,674 ha	ha	37,674 ha	19,366 ha	ha	19,366 ha	ha	ha	ha
特別保護地区	9,679 ha		9,679 ha	8,184 ha	ha	8,184 ha			
特別地域	26,884 ha		26,884 ha	11,182 ha	ha	11,182 ha			
普通地域	1,111 ha		1,111 ha	ha	ha	ha			
文化財保護法による地域 (十和田湖及び奥入瀬渓流)	13287 ha	ha	13287 ha	11,028 ha	ha	11,028 ha	ha	ha	ha

(注)

- ヘクタール単位とし、原則として小数点以下を四捨五入する。
- 面積の精査により、数値の変更があった場合は、精査前の面積を既存面積の項に( )書きで上段に記載する。
- 「形態別内訳」の水面については、干潟の面積を内数で( )書きで記入する。
- 「所有者別内訳」の保安林については、森林法第25条第1項各号の目的別に面積を記載する。
- 「他の法令による規制区域」については、自然環境保全法に基づく指定地域(国指定自然環境保全地域及び都道府県指定自然環境保全地域)、自然公園法に基づく指定地域(国立公園、国定公園及び都道府県立自然公園)、文化財保護法に基づき区域指定地域されている地域のいずれかに該当する場合に、それら規制区域ごとに名称と面積を記入する。



		タカブシギ	VU	旅鳥
		イソシギ		留鳥
		ハマシギ	NT	旅鳥
		アカエリヒレアシシギ		旅鳥
	カモメ	ヒメクビワカモメ		迷鳥
		○ ユリカモメ		冬鳥
		ウミネコ		留鳥
		○ カモメ		冬鳥
		セグロカモメ		冬鳥
		オオセグロカモメ		冬鳥
		アジサシ		旅鳥
	ウミスズメ	ウミスズメ	CR	冬鳥
		コウミスズメ		迷鳥
タカ	ミサゴ	ミサゴ	NT	留鳥
	タカ	ハチクマ	NT	夏鳥
		○ トビ		留鳥
		○ オジロワシ	VU 天然記念物 国内希少 国際希少	冬鳥
		○ オオワシ	VU 天然記念物 国内希少	冬鳥
		ツミ		夏鳥
		ハイタカ	NT	留鳥
		○ オオタカ	NT 国内希少	留鳥
		サシバ	VU	夏鳥
		○ ノスリ		留鳥
		○ イヌワシ	EN 天然記念物 国内希少	留鳥
		クマタカ	EN 国内希少	留鳥
フクロウ	フクロウ	オオコノハズク		留鳥
		コノハズク		夏鳥
		○ フクロウ		留鳥
		アオバズク		夏鳥
		コミミズク		冬鳥
サイチョウ	ヤツガシラ	ヤツガシラ		旅鳥
ブッポウソウ	カワセミ	○ アカショウビン		夏鳥
		○ カワセミ		留鳥
		○ ヤマセミ		留鳥
	ブッポウソウ	ブッポウソウ	EN	夏鳥
キツツキ	キツツキ	アリスイ		夏鳥
		○ コゲラ		留鳥
		○ オオアカゲラ		留鳥
		○ アカゲラ		留鳥
		クマゲラ	VU 天然記念物	留鳥
		○ アオゲラ		留鳥
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		留鳥
		チゴハヤブサ		夏鳥
		ハヤブサ	VU 国内希少	留鳥
スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	VU	夏鳥
	カササギヒタキ	サンコウチョウ		夏鳥
	モズ	チゴモズ	CR	夏鳥
		○ モズ		留鳥
		アカモズ	EN	夏鳥
	カラス	○ カケス		留鳥
		○ ホシガラス		留鳥
		○ ハシボンガラス		留鳥
		○ ハシブトガラス		留鳥
	キクイタダキ	キクイタダキ		留鳥
	シジュウカラ	ハシブトガラ		迷鳥
		○ コガラ		留鳥
		○ ヤマガラ		留鳥
		○ ヒガラ		留鳥
		○ シジュウカラ		留鳥

ヒバリ	ヒバリ	留鳥
ツバメ	○ ツバメ	夏鳥
	○ イワツバメ	夏鳥
ヒヨドリ	○ ヒヨドリ	留鳥
ウグイス	○ ウグイス	留鳥
	○ ヤブサメ	夏鳥
エナガ	○ エナガ	留鳥
ムシクイ	○ メボソムシクイ	夏鳥
	エゾムシクイ	夏鳥
	○ センダイムシクイ	夏鳥
メジロ	メジロ	留鳥
センニュウ	エゾセンニュウ	旅鳥
ヨシキリ	オオヨシキリ	夏鳥
	コヨシキリ	夏鳥
レンジャク	キレンジャク	冬鳥
	ヒレンジャク	冬鳥
ゴジュウカラ	○ ゴジュウカラ	留鳥
キバシリ	キバシリ	留鳥
ミソサザイ	○ ミソサザイ	留鳥
ムクドリ	○ ムクドリ	留鳥
	○ コムクドリ	夏鳥
カワガラス	○ カワガラス	留鳥
ヒタキ	○ マミジロ	夏鳥
	○ トラツグミ	留鳥
	クロググミ	夏鳥
	マミチャジナイ	旅鳥
	シロハラ	冬鳥
	○ アカハラ	夏鳥
	○ ツグミ	冬鳥
	○ コマドリ	夏鳥
	ノゴマ	旅鳥
	○ コルリ	夏鳥
	○ ルリビタキ	留鳥
	ジョウビタキ	冬鳥
	ノビタキ	夏鳥
	サメビタキ	夏鳥
	コサメビタキ	夏鳥
	○ キビタキ	夏鳥
	○ オオルリ	夏鳥
イワヒバリ	○ イワヒバリ	旅鳥
	○ カヤクグリ	留鳥
スズメ	○ ニュウナイスズメ	夏鳥
	○ スズメ	留鳥
セキレイ	○ キセキレイ	留鳥
	○ ハクセキレイ	留鳥
	○ セグロセキレイ	留鳥
	○ ビンズイ	夏鳥
	タヒバリ	冬鳥
アトリ	○ アトリ	冬鳥
	○ カワラヒワ	留鳥
	○ マヒワ	冬鳥
	ベニヒワ	旅鳥
	ハギマシコ	冬鳥
	ベニマシコ	冬鳥
	オオマシコ	冬鳥
	ギンザンマシコ	旅鳥
	イスカ	留鳥
	○ ウソ	旅鳥
	○ シメ	旅鳥

			○ イカル	留鳥
	ホオジロ		○ ホオジロ	留鳥
			ホオアカ	夏鳥
			○ カシラダカ	冬鳥
			ミヤマホオジロ	冬鳥
			<u>シマアオジ</u>	旅鳥
			ノジコ	夏鳥
			○ アオジ	夏鳥
			クロジ	夏鳥
合計	18	49	183	

CR  
NT

(注)

- データは既存文献、鳥獣保護区管理員報告書、調査業務結果に拠る。
- 鳥類の目・科・種(和名)及び配列は、日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会、2012年)に拠った。
- ほ乳類の目・科・種(和名)及び配列は、日本の哺乳類改定版(阿部永ほか、2005年)に拠った。
- 種指定等の要件は次の通りである。  
環境省レッドリスト2017  
EW: 野生絶滅、CR: 絶滅危惧 I A類、EN: 絶滅危惧 I B類  
VU: 絶滅危惧 II 類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足  
国内希少: 絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存法に関する法律による国内希少野生動植物種  
国際希少: 絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存法に関する法律による国際希少野生動植物種  
天然記念物
- 印は当該区域において一般的に見られる鳥獣。アンダーラインは鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律第2条第4項により特に保護を図る必要があるものとして環境省令で定める鳥獣及び天然記念物に指定された鳥獣。
- 備考欄には、鳥類については留鳥、夏鳥、冬鳥、旅鳥又は迷鳥の別を記載する。

目	科	種または亜種	種の指定等	備考
食虫目	トガリネズミ科	カワネズミ ニホンジネズミ		
	モグラ科	ヒメヒミズ ヒミズ ミズラモグラ アズマモグラ	NT	
翼手目	キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ コキクガシラコウモリ		
	ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ ヒメホオヒゲコウモリ クロホオヒゲコウモリ カグヤコウモリ ヤマコウモリ ヒナコウモリ ウサギコウモリ テングコウモリ コテングコウモリ	VU VU	
霊長目	オナガザル科	ニホンザル		
食肉目	イヌ科	キツネ タヌキ		
		クマ科	ツキノワグマ	
	イタチ科	テン イタチ イイズナ オコジョ アナグマ		
		ジャコウネコ科	ハクビシン	
偶蹄目	イノシシ科	イノシシ		
	シカ科	ニホンジカ		
	ウシ科	カモシカ	天然記念物	
齧歯目	リス科	ニホンリス ムササビ ニホンモモンガ		
		ネズミ科	ヤチネズミ ハタネズミ アカネズミ ヒメネズミ ドブネズミ クマネズミ	
	ネズミ科	ハツカネズミ		
	ヤマネ科	ヤマネ	天然記念物	
	ウサギ科	ニホンノウサギ		
合計	7	17	42	

(注)

- データは既存文献、鳥獣保護区管理員報告書、調査業務結果に拠る。
- 鳥類の目・科・種(和名)及び配列は、日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会、2012年)に拠った。
- ほ乳類の目・科・種(和名)及び配列は、日本の哺乳類改定版(阿部永ほか、2005年)に拠った。
- 種指定等の要件は次の通りである。  
環境省レッドリスト2017  
EW: 野生絶滅、CR: 絶滅危惧 I A類、EN: 絶滅危惧 I B類  
VU: 絶滅危惧 II類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足  
国内希少: 絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存法に関する法律による国内希少野生動植物種  
国際希少: 絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存法に関する法律による国際希少野生動植物種  
天然記念物
- 印は当該区域において一般的に見られる鳥獣。アンダーラインは鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律第2条第4項により特に保護を図る必要があるものとして環境省令で定める鳥獣及び天然記念物に指定された鳥獣。
- 備考欄には、鳥類については留鳥、夏鳥、冬鳥、旅鳥又は迷鳥の別を記載する。